

選ばれる大学への飛躍の年



学長
成田 健一

今年は2020年という節目の年です。東京オリンピック・パラリンピックの開催ということもあり、

GWのほとんどを授業日にせざるを得ないなど、学事日程にも少なからず影響が出るようになります。学校運営という面では、「私立学校法の改正」が今年の4月から施行され、学校法人の中期的な計画の作成、情報公開の充実、ガバナンスの強化などが新たに求められます。これに対しては、現在法人を中心に「寄附行為」の見直しを進めて頂いております。

大学に関しては、改革総合支援事業で展開されてきた「プラットフォーム形成」が、ガイドラインの制定を含め、より強力に求められつつあります。これには、私学法改正

にも盛り込まれている「破綻処理」の視点も見え隠れしている気がします。

大学は今、来年度からの中期計画の策定を進めています。確実に学生の成長させる大学として社会に認知されるよう、教育力の充実を中心に検討しています。本計画を完成させ、継続的なPDCAの軌道に乗せることが、今後4年間の優先課題です。

昨年は、春日部学生政策提案コンテストでの3年連続グランプリの獲得、障害者支援でのJIDF学生文化デザイン賞グランプリの受賞など、学生の活躍が続きました。社会貢献を通じて、「学んだことを社会で活かす経験をさせる」という中期計画のコンセプトにも合致する活動が広まっていることは嬉しい限りです。

昨年のビジネスプランコンテストでも「外国人ママのための住みやすい街づくり」というソーシャルビジネス的なテーマがグランプリを受賞したのも印象的なできごとでした。

また本学の学生フォーミュラの車体を、部品の大半を学生が手作りしていることを評価頂き「ものづくりに掛けた情熱」を社員に伝えるために、ホンダの研究所に展示したいというオファーを頂いたことも嬉しいニュースでした。まさに学生の成長のために愚直に取り組んできた本学の姿勢が評価されたと言えます。

実工学の学びという伝統を継承しつつ、本学の更なる飛躍の年とするために、関係各位のご支援ご協力を改めて心よりお願い申し上げます。